長谷（はせ）みらい広場
長谷で暮らす人と人をつなげる
vol.2
2021年11月発行
発行：溝口未来プロジェクト
住所：伊那市長谷溝口430-1
TEL/FAX：0265-98-2015
E-MAIL:mizokuchi.mp@gmail.com
http://blog.livedoor.jp/mizokuchimp
活動の様子はブログから
委員編集 中山勝司、中山友悦、中山幾雄、橋爪勇志
倉田みちる、坂野心一朗、松井博、宮川沙加

# 地域の人たちとともに歩む長谷中

長谷に住み続けるには、元気な長谷で居続けるには、今何をどうしていかなければならないのか。溝口未来プロジェクトの活動の目的を長谷地域に広げて考えていきたいと思います。

長谷中全校生徒31人による「くろゆり祭」ステージバックの制作

第2号の発行にあたり、当編集委員会は長谷の将来を思うとき、長谷に住む子供たちの思いを知ることが必要と考えました。新型コロナ禍のなか、子供たちとの面談は叶いませんでしたが、長谷中生徒の皆さんへのアンケートと、アンケート結果を踏まえて数名の親御さんの意見もお聞きしました。

また10月1・2日には第56回くろゆり祭が行われました。全校生徒31人、少人数ではありますが一人ひとりの活躍の場のある長谷中ならではの文化祭に精一杯取り組んでいる様子が伺えました。

## 長谷の魅力は？

長谷に住んでいて魅力と思うことは、子供たちも親御さんも自然環境の良いことを挙げています。小さい頃から家族で山や川に遊びに行ったり、自然に親しんでいます。

また祖父母と同居や、近くに住むなど、お年寄りとのふれあいが多いのも、田舎ならではの良さです。そして長谷中では教育に農業体験を取り入れていますが、生徒の多くが家での手伝いの経験があり、楽しんで前向きに取り組んでいるのも農山村で育った子たちだからの良さと思います。

## 長谷中はどう？

長谷中は小規模校ゆえに、先生方の目が生徒一人ひとりに届く教育、指導がなされ、生徒たちは学年を超えたつながりの中で、個々が役割を持ち、それぞれが活躍しています。農業を通じた生産、加工、販売の教育への取り組みや、地域とのつながりは長谷中だからできていることです。

一方で、少人数ゆえの競争力の弱さを懸念する方もいます。また個々の役割が多く負担が大きいことがあり、家族や地域の大人の方々が協力、応援しています。

長谷中3年生の皆さん

## 長谷に住み続ける

長谷は良いところだけど、住み続けるにはどうなんだろう？長谷中生徒に将来住みたい場所を聞くと、3分の2が地元外を希望しています。その理由としては、住む場所としての魅力（生活環境、人間関係、子育て等々）よりも、住み難いと思う方が強いからと思います。子供たちは地域に店がないことを寂しく思っています。親御さんは高校進学するのに公共交通の不便を挙げています。小規模校教育はメリットも多くありますがデメリットもあります。

私たちはこの地に住み、地域の活力を保ち、長谷に住み続ける努力をしなければなりません。高校通学手段の改善や、教育、部活等の他校交流による競争力の養成や、多人数に馴染む機会を増やすなど、地域を挙げて取り組んでいかなければならない課題と思います。

（文・勝）

## 長谷中生徒へのアンケートまとめ

（全校生徒数：31人
回答数：1年生11人、2年生9人、3年生10人）

- 祖父母と同居1/3、別居だが日々交流1/3、別居1/3
- 長谷地域の魅力について、多数が自然環境やこの地に住む人たちの人柄の良さを挙げている。
- 2/3が家での農業体験があり、手伝い経験がある。中学での農業体験について、8割が共同作業、収穫の喜びなど楽しいと回答。
- 多数が家族や行事等で自然との触れ合い経験があり、山、川での体験に印象を持っている。
- 将来住みたい場所は地元1/3、伊那市以外1/3強、県外1/3弱。
- 地元外希望2/3の理由は、この地域から出たい等、住む場所としての魅力に欠ける点を挙げている。
- 地域に欲しいものは、多数がスーパー、コンビニ、店を挙げている。
- 長谷中については多数が誇り、自慢がある。その理由としては、ラー油づくり、地域に関わる活動等、またテレビ、新聞での報道

# 地域と人をつなぐ

ここでは、長谷にどんな人が住んでいるのかをご紹介します。

地元の人

中島 峰子（なかじま みねこ）さん（74）［長谷黒河内］

## 美しい図案を生み出す やしょうま名人

黒河内地区の中でも標高が高く、遠くまで続く山並みと集落を見渡すことのできる景色の美しい「黒川」に中島さんは家族3人で暮らしています。そんな中島さんは「やしょうま」の名人です。「やしょうま」はお彼岸の時に作られる、米粉を練ったものに色をつけて蒸したお団子です。

中島さんの生まれは高遠町で、子どもの頃から高遠町勝間にある龍勝寺の行事でお母さんが「やしょうま」を作っていたのを見ていたそうです。昔から親しんでいた「やしょうま」ですが、当時は色をつけたシンプルなものだったといいます。長谷に嫁いでから、北信で作られる花などの図案が美しい「やしょうま」をテレビで見て、作ってみようと始め、それが評判を呼び、「やしょうま」を教えるようになったそうです。現在も、農協や学校などによばれ上伊那各地で活躍中です。美しい「やしょうま」の図案は自分で試行錯誤しながら作るといいます。難しかった図案を聞くと長谷に伝わる民話「孝行猿」の顔を頼まれた時は、目が歪まないように作るのが難しくて苦労したと話してくれました。

「頼まれると何かしてあげたくなって…」という中島さん。今までのお話を聞いていくと、頼まれて様々なお仕事をされているパワフルな方でした。中でも驚いたのが、林道バスの運転手もしていたことです！今も忙しいシーズンには声をかけられることがあるそう。山道の運転だけでなく、ガイドも行う林道バスの運転、複雑な図案も作り出す「やしょうま」、中島さんの様々な一面を知れば知るほど、もっとお話を聞きたくなってしまう魅力的な方でした。

（文・友）

やしょうま

地元の人

高坂 英雄（こうさか ひでお）さん（75）［長谷市野瀬］

## 秋葉街道を歩いて長谷の魅力を知った

高坂さんはお子さんが親元を離れ、ご夫婦2人で市野瀬柏木に住んでいます。市野瀬柏木は孝行猿の民話発祥の地であり、塩見岳が望める美しい場所です。標高は1100メートル、長谷の中で日照時間が最も長いため農作物を作るのにも適しています。高坂さんは長年農協に勤め、現在は花や野菜を育て直売所に出荷しています。そんな高坂さんが特に心を置いてきたのは、長谷を通る秋葉街道です。平成17年から25年まで秋葉街道普請隊の隊長を勤め秋葉街道のガイドをしてきました。

秋葉街道は静岡県の秋葉山への参詣道として盛んに利用された道です。高坂さんは、平成17年に長谷村（当時）で秋葉街道を観光に活かせないかという話が持ち上がったのをきっかけに街道に関わることになりました。古い地図を頼りに道を探したり、地権者に許可をとったりしながら整備を進め、平成20年に整備が完了しました。その年に、「昔の人の苦労を知ろう」と秋葉神社で12月に行われる例大祭に合わせ、実際に歩いて静岡県まで行ったそうです！平成21年からは秋葉街道を歩くイベントも開催し、毎年大変人気で観光に訪れる方も多かったと言います。

秋葉街道の白衣観音

高坂さんは、秋葉街道を歩いてみて「長谷はこんなに美しい場所だったんだ…」と感じたと言います。長谷の地で生まれ育った高坂さんにとって長谷の自然は当たり前のものでしたが、秋葉街道を歩き、木漏れ日を受ける石仏や道から見える景色を見たときに感慨深く感じたそうです。「現在は昨年の大雨の影響で通れないところもありますが、長谷に住んでいる人にはぜひ、一度は秋葉街道を歩いてみてほしい」と高坂さん。写真を交え話してくださる秋葉街道の話はどれも魅力的で、次は現地で長谷の自然を体感したいと思うお話でした。

（文・友）

移住者

松尾みゆきさん（49）、秀一（しゅういち）さん（57）［長谷杉島］

## 自然の中の暮らしを楽しむ

松尾さんご夫婦が住む杉島地区は、道の駅からさらに南へ15分ほど車で進んだ先の谷間の集落です。お子さん3人が親元を離れ現在はご夫婦で暮らしています。

高遠町出身の秀一さんは東京から30代の時に帰郷し、森林組合で働き始め、24年前に長谷に移住、令和元年3月から「つなぐ里山」という間伐・搬出・造林・特殊伐採等を行う会社を立ち上げ、上伊那地域を中心に活動しています。林業に携わり始めて23年、森林組合で一緒だった経験豊富な心強いメンバーとともに働いています。庭木の剪定など身近な相談も受けてくれるそうです。

群馬県出身のみゆきさんは、短大で陶芸を学び長野県阿南町陶芸センターに就職し、30年程前に長谷に移住しました。山の中で静かに暮らせるところを探し、杉島を選んだといいます。平成25年から溝口、熱田神社近くの蔵を改修して「土のうた 工房Wa」を構え、陶芸教室や作品の展示・販売、3年前からは自家栽培や地元の作物を使用した焼き菓子の製造・販売も行なっています。みゆきさんは長谷に移り住んだ時から、雑穀栽培などを行い自給的な暮らしを好んでおり、そうした取り組みの中で秀一さんと縁があったといいます。初デートは仙丈ヶ岳の登山だったと笑いながら話してくれました。

長谷の好きなところを伺うと「人との程よい距離感があり、自然も豊か。杉島が好きで、ここより好きなところはないと思い、居続けています」とみゆきさん、「静かで自然の音が聞こえること、人との関わりも多くないのがいいかな」と秀一さんは話してくれました。杉島は、移住して20年以上暮らしている移住者も多いそうです。お二人のお話から、杉島のゆっくりとした時間の流れが垣間見え、長谷の中でも地区ごとに暮らしの雰囲気が違うのかもしれないと興味深く感じました。

（文・友）

土のうた 工房Wa

移住者

中川 恭子（なかがわ きょうこ）さん（39）、和彦（かずひこ）さん（46）
太郎（たろう）君（4）、葵葉（あおは）ちゃん（5ヶ月）
［長谷溝口］

## 薪ストーブのある家で自給自足したい！

兵庫県出身の中川和彦さんと東京都出身の恭子さん、太郎君、葵葉ちゃんの4人家族。3年前、気さくな長谷の方との出会いや、環境や景色が心地よい保育園が一つの決め手となり長谷に移住されました。

和彦さんはサンハート美和の介護職員さんですが、ご夫婦共に鍼灸師の資格を持っており、近い将来この長谷の地で開業し自給自足の生活ができることを思い描いています。「こんな自然豊かな長谷にいて、スーパーで野菜を買っているなんてもったいない。できれば電気も自給自足したい、鶏も飼いたい」と和彦さん。現在は溝口の市営住宅、中島団地にお住まいですが、住宅の広さの問題やカビが発生することもあり、静かに子育てができる一軒家を探しています。

また、「子ども同士遊べる場があればいいな」と恭子さんの子育て中の悩みも話に上がりました。移住されてきた核家族で小さな子をもつ親たちは、常に子どもと一対一で時間を過ごします。自分たちが選択してこの地にいるのはもちろんですが、子どもたちのエネルギーは親の手に余ることもしばしば。子どもは、子ども同士遊んだり親以外の大人たちとの関わりによって社会性や多様性を身につけていくものだし、親子の間に第三者が入ることによって客観的に子どもや自分を見つめ、より心地良い子育てができるのではないでしょうか。『困った時はお互い様』の関係が広がっていくといいなと感じたインタビューの時間でした。

（文・倉）

# 私の好きな場所

長谷でお気に入りの場所を
教えていただきました。

溝口中島団地北側から美和湖をのぞむ

道を進んだ先にある小さなコスモス畑

## いつもの散歩道

家を出て、まっすぐ平坦な道を行く。長谷に移り住んで2年、晴れた日も雨風が吹く日もこの景色を見て過ごしてきた。今日は夕焼けがきれいだなー、とか山が色づいてきたなー、とか無意識に感じながら、この道を歩きながら「ふぅー」とひと息つく。

無意識に視界に入る田んぼや里山を見て、季節の移ろいを感じられるのは田舎民の贅沢だと思います。

夫婦二人で歩いていたこの道も、気づけば子どもたちと歩くいつもの道に。子どもの目線まで屈んで空を見上げると、空が壮大に見えたり、子どもが摘んだ野草の名前は何だろうと疑問に思ったり、小さな人は毎日たくさんの気づきや発見をくれます。

そうそう、この道の先に小さなコスモス畑があってきれいなんです。

（文・橋）

はしづめ　りょうか
橋爪 嶺香 さん
［長谷溝口］

2019 年 4 月、兵庫県から移住。伊那市出身の旦那さん、2 才と 10ヶ月の娘の4人家族。家族で長野の山を楽しんでいる。

## 有害鳥獣から地域を守る
# 長谷猟友会

長谷地域には、さまざまな活動をしている団体があります。今回は、長谷猟友会に登場していただきました。

「私が狩猟をはじめた50年程前。鹿は大鹿村に近いアルプスの麓にしか居なかった」。そう語るのは平林盛雄長谷猟友会、会長さん（市野瀬）。その鹿が近年人家に近い里山にも出没するようになり、又猿は集団で現れ収穫寸前の作物が全滅する被害が頻発しています。そのために作付けを諦める人も増えています。

この有害鳥獣駆除の一翼を担っているのが「長谷猟友会」です。仕掛けたワナを毎日見回り、猿が出たと聞けば銃を持って駆けつけ捕獲に取り組んでいます。最近では仙丈ケ岳の鹿によるお花畑の食害防止のため環境省から依頼を受け春秋の二回アルプス林道沿いのエリアでワナを使った、捕獲事業にも参加しています。

有害鳥獣とは言えその命を奪う行為は会員の心に強い負担を強います。そのため、毎年お寺さんに鎮魂の法要をしてもらう会員もいます。人間の行為による地球温暖化や、森林の放置も動物に影響し生態系を変えています。私たちの行動について一人ひとりが真剣に考える事が大事ではないでしょうか。

現在の、長谷猟友会の会員は昨年より7名増え35名です。内、移住者が5名、女性も2名参加しました。いずれも未来を託せる若い人たちです。

（文・友）

南アルプス林道沿いでの捕獲事業の様子

**伊那市の農林業被害額**

| | 農業（千円） | 林業（千円） |
|---|---|---|
| 2015（H27） | 31,220 | - |
| 2016（H28） | 29,449 | 5,796 |
| 2017（H29） | 25,884 | 5,639 |
| 2018（30） | 20,108 | 130 |
| 2019（R1） | 17,954 | 30 |

**長谷地域捕獲獣数（注１）**

| | シカ | サル | イノシシ |
|---|---|---|---|
| 2016（H28） | 388 | 64 | 15 |
| 2017（H29） | 269 | 78 | 12 |
| 2018（H30） | 202 | 44 | 5 |
| 2019（R1） | 531 | 41 | 10 |
| 2020（R2） | 204 | 43 | 1 |

**長谷猟友会 会員数（5年間）**

| | |
|---|---|
| 2017（H29） | 35人 |
| 2018（H30） | 33人 |
| 2019（R1） | 30人 |
| 2020（R2） | 28人 |
| 2021（R3） | 35人 |

注１）その他、ハクビシン、穴熊、狐、狸等の小動物も捕獲しています

### ニュース

新会員、松井博さん（溝口）のワナに小熊が掛かりました。

民家から直線で100m位の場所で熊が誤ってワナに掛かったため総合支所に通報、県の専門部門の担当者が捕獲し奥山に放しました。

身近な場所でも熊に出会う危険があります。みなさん山に入る時は鈴などの音の出るものを身につけましょう。

小熊が捕獲されている様子

### 長谷猟友会 今後の課題

○ 担い手の確保(会員が高齢化のため上伊那全体では減少傾向)

○ 捕獲した鹿等の有効活用、解体処理施設の設置
(現在はほとんどが埋没処理されています)

ワナ免許の取得に関するご相談は

長谷総合支所 TEL.0265-98-2211（代）または
上伊那地域振興局 TEL.0265-78-2111（代）まで

# 長谷地域の各区における移住者等の状況

伊那市では伊那市移住・定住促進プログラムを策定して人口減少に歯止めをかけるべく取り組んでいます。長谷地域は空家を購入して定住される方が徐々に増えつつあり、各区における状況を区長に聞いてみましたが、対応は区によりまちまちでした。

暮らしやすく魅力ある「長谷地域のみらい」を目指して、移住者の意見も取り入れて長谷地域としての受け入れ体制を充実させていくという課題も見えてきました。

（文・勝）

| 区　名 | 非持山（ひじやま） | 非　持（ひじ） | 溝　口（みぞくち） | 黒河内（くろごうち） | 中　尾（なかお） | 市野瀬（いちのせ） | 杉島（すぎしま） | 浦（うら） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 世帯数（合計783戸） | 74戸 | 336戸 | 156戸 | 60戸 | 40戸 | 71戸 | 39戸 | 7戸 |
| 人口（合計1,673人） | 182人 | 630人 | 407人 | 146人 | 76人 | 158人 | 65人 | 9人 |
| 移住者戸数 | 4戸 | 未調査 | 37戸 | 4戸 | 2戸 | 8戸 | 10戸 | |
| 移住者人数 | 10人 | 未調査 | 未調査 | 16人 | 2人 | 12人 | 15人 | |
| 移住者の状況 | 空家を購入する移住者が増えている。 | 市営非持定住促進住宅への若年層入居者が多い。 | 赤坂住宅や市営中島団地があり、移住者が多い。 | 空家が多く、移住者が増えている。 | 農業法人「ワッカアグリ」が入区し、地域との交流が盛ん。 | 移住者戸数が多いが、区民との関わりが少ない様子。 | 静かな山間地で移住者が多い。 | |
| 各区の様子<br>長谷地区（伊那市HP） | 傾斜地に集落がまとまっている。高齢化が特に進んでいる。 | 診療所、高齢者等の福祉施設、道の駅等がある。高遠町に近く交通の便が良い。 | 市町村合併前の中心部で市総合支所、保育園、小学校、中学校、郵便局がある。 | 市営宿泊施設「仙流荘」、南アルプススーパー林道バス発着駅がある。 | 小高い階段状の田畑が広がる。中尾歌舞伎で有名。若者が特に少ない。 | 以前は森林組合や「気の里」で活気があった。営農組合による河原米の生産に注力している。 | 以前は木材の集積場として重要地であった。戸草ダム建設構想に伴い工事・生活用道路が充実した。 | |

注1）世帯数、人口は伊那市住民基本台帳（令和3年10月1日現在）による。
注2）非持区の世帯数、人口は特養サンハート美和（指定介護老人福祉施設）169床（ホームページより）を含む（推定）。

## くじら農園で大きく育った野菜収穫

「くじら農園」は、長谷保育園の南隣にある遊休地を利用して、園児が農業体験をたっぷりとできるように「溝口未来プロジェクト」の産業創成部会が5年前より立ち上げた無農薬農園です。農園名は保育園の愛称『そらとぶくじら保育園』に由来します。

産業創成部会の活動として、長谷保育園で3年ほど前から始まった山保育、その保育の一部として自然の循環や食の大切さ、収穫の喜びを学べるようにくじら農園を、また遊び場所の提供、（危険個所の除去、草刈り等）を目指した活動をしています。

昨年からは、補助金を利用して電気柵を設置することが出来ましたので、サル被害であきらめていた作物も作ることが出来るようになり、今年は沢山の花も植えて充実した農園の形になってきました。

新型コロナウイルス感染を避けるために、2年続いて種まきや苗植えを一緒に体験することが出来ませんでしたが、ジャガイモだけは、年長さんとメンバーで植え付けから収穫まで行いました。

「根っこがあるからここかな」と、力一杯引き抜くと大きなジャガイモに「あった」と大喜び。まわりの食べ頃の野菜を見つけると「トウモロコシ食べられるよ、取っていこう」スイカ、トマト、ナス、枝豆等を嬉しそうに抱えて「おやつ、給食で食べるんだ」と次々にかごに入れていました。まだお手伝いをしないと収穫が大変な野菜がありますが、園長先生と相談しながら収穫のお手伝いをします。

保育園でもこの活動を喜んでくださり、園児が畑で楽しんでいる写真を添えたお礼状をいただきました。来年はいつものように年少園児含めて、私達メンバーと交流しながらくじら農園が運営出来るように、新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。

（文・産業創成部会　中島章）

野菜収穫の様子

## 長谷みらい米づくりプロジェクト

2021年度から、溝口未来プロジェクト産業創生部会と長谷さんさん協議会の協働で「長谷みらい米づくりプロジェクト」が動き出しています。

伊那市長谷中尾で農薬・肥料不使用の米栽培を行う農業法人「Wakka Agri（ワッカアグリ）」社長の細谷啓太さんを勉強会の講師に迎え、溝口の3つの田んぼで有機栽培の米づくりに挑戦しています。長谷地区の棚田活用の一つとして棚田オーナー制も見据えて、まずは有機栽培の米づくりを自分たちが実践してみようと始まりました。長谷地区や、伊那市近郊からの参加者を交え、田植えや田の草取りなどを行い9月下旬に稲刈りを終えました。

こうした農体験を通して、長谷を身近に感じてもらったり、長谷の魅力を知ってもらえたりする機会を作っていければと思います。

（文・友）

伊那市内外から集まった参加者たち

## おしらせ

### お子さん預かります！

保育園児、小学生のみなさんを、時間外やおやすみの時などにお預かりします。また、不要になったお子さんのおもちゃを寄付していただける方はご連絡ください。

お問い合せ
溝口未来プロジェクト 生活環境部会
大村妙子　080・1259・0744
松井美香里　080・7712・0640